

早送りで見える未来

インテリジェント・イノベーション・ネットワーク

🕒 Read 2分

PODCAST

00:00

00:00

🔊 Listen to: 早送りで見える未来

[Listen to more Podcasts](#)

オープンなプラットフォームやデジタルネットワークが普及するにつれ、世界中から専門分野のスペシャリストを参加させて企業は迅速に正確に進化を遂げることを迫られることになる。すでにその兆候があるのが医療分野だ。例えば、「癌ゲノム・アトラス」の開発だ。全米の医療機関の研究者たちは協力しながらゲノム変化領域を30種類以上の癌タイプのDNAと分子に体系化している。または、電子医療記録システムプラットフォームであるOpenMRSの開発は、エイズ、マラリア、結核の治療が必要な開発途上国の地域支援サービスの強化につながっている。

100人の人が10分間だけプロジェクトに携わるという人間同士がより深く繋がるネットワーク型スペースでどうオフィスそのものが進化していくのか。これはフィンランドの社会学者Esko Kilpi氏が予測したシナリオだ。近未来のオフィスには、巨大なネットワークでの情報の可視化とアクセスを実現しながら、流動的に動くチームとその複雑なワークフローに対応できる柔軟性が必要となる。例えば、午前中、オフィスの可視化を可能にしたガラスで囲まれた個室での集中作業。その後、音声認識と翻訳ソフトウェアを使用してドバイとベルリンの同僚と母国語でビデオ会議に参加する。ここではアプリやプログラムの手動操作を可能にする大型のタッチスクリーンモニターによって、会議の出席者の全員が公平に参加できるのだ。ここで活躍するのがAI搭載オフィス家具で、午後の後半で集中力が落ちた人のために会議の議事録ややることリストがクラウド上に保存されていく。

01 | 垣間見える未来

.....
ギグ・エコノミーでの活性剤

.....
莫大な量のデータを操る

.....
インテリジェント・イノベーション・ネットワーク

.....
健康的かつ持続可能なスペース

.....
部屋自体がチームのメンバー

.....
私たちを理解する「スペース」とは

.....
仮想ソーシャルスペース